

住民参加による 個性豊かなまちづくり

3 地域で守り育てる子ども支援策の推進

～子どもを健やかに育む環境づくりなど～

● 保育園3園体制に向け整備進む

町の保育園統廃合計画により、平成23年度から現在の「第二・第五・一ッ浜保育園」の三園体制がスタートします。安心して園児を預けられる快適な環境の整備と保育の質の向上を目指して、平成20年度の第二保育園並びに昨年度の第五保育園の全面改築工事の完成。また本年度では一時休園をしての一ッ浜保育園の改修工事の実施（8月末完成）へと、23年度からの三園体制に向け、町では計画的に施設の整備を進めてまいりました。

4月から新園舎による保育が再開された第五保育園では、心身障害児通園訓練施設「せせらぎ園」と言語障害児通所指導施設「おはなしの広場」を併設し、保育園と一体となった運営により、健全な家庭環境の形成を支援しています。また、廃園後の第三保育園を活用しての「高齢者と子育てふれあい交流センター（仮称）」に向けては皆さんのご意見をいただきながら検討しています。



第5保育園が4月新しく開園

● あすなろ公園に複合遊具新設へ

子どもの夢が広がる楽しい空間の創造へ！日本宝くじ協会の助成を受けて、町があすなろ公園に計画している複合遊具施設の設置事業が始まりました。プロポーザル方式でアイデアを募り、一体の景観にマッチした下諏訪らしいオリジナル遊具を備えた施設となります。設計のコンセプトは「御柱祭」。児童用コンビネーション遊具「やまだしとりで」と幼児用の「さとびきランド」で構成され、「やまだしとりで」はチューブスライダー、トランポリンネット、ターザンロープなどを設け、また「さとびきランド」は四隅の御柱をモチーフにした砂場と迷路が組み合わされた楽しい複合遊具となります。選考にあたっては、プレゼンテーションの審査と両小学校の児童、全保育園の保護者を対象にしたアンケート調査も参考に決定しました。工事開始は、年明けからで3月末の完成を目指しています。



● 喜ばれています、誕生祝い金

「下諏訪町に生まれてくれてありがとう！」という思いを込めて、出生したお子さんに1人2万円を支給し誕生をお祝いする町独自の子育て支援策も本年で4年目を迎えました。地域で成長を見守っていく趣旨で地区担当の民生児童福祉委員が誕生したお子さんのご家庭を直接訪問してお届けします。平成21年度では、157人のお子さんに祝い金が支給されました。

● ごみ有料化、諮問どおり答申

ごみの減量化と資源化の促進を目的に17年から始まった「生ごみ減容リサイクル事業」は年々参加者も増え、着実にごみ減量化が進んでいます。併せて「ごみの有料化」について町から諮問をうけ検討していた町環境審議会は、諮問どおり生活系の焼却、埋め立てごみ処理などの有料化を答申しました。町は来年4月からの有料化に向け、町議会9月定例会に条例改正案を提出、説明会の開催などとおして住民への周知と理解を求めています。答申の中にも「より一層循環型社会の構築に資することとされたい」とあります。ごみの発生抑制は社会全体のスリム化と連動させ、環境問題にも積極的に取り組んでまいります。

住民参加による 個性豊かなまちづくり

● 伏見屋邸復元修理事業がスタート

総事業費約2千5百万円を投じ、町が歴史的風致維持向上計画に基づき進めている、東町下の伏見屋邸復元修理事業ですが、3月末の同邸土蔵の保存整備事業の完成に引き続き、本年度伏見屋邸復元修理事業に着手しました。来年2月末までには中山道沿いで呉服商を営んだ江戸時代末期の趣を取り戻す姿に期待されています。同邸は、諏訪大社秋宮と春宮を結ぶ約1.2kmの中山道沿いにあり両宮からの徒歩圏内にあるもので、まち歩きの際のネットワークの要となるものです。江戸時代末期の当時の商家の特徴を色濃く残すもので、観光活性化にも期待されています。



● 「門前ひろば食祭館」がオープン！

町がまち歩きの新たな観光拠点として、積極的に誘致をした門前ひろば食祭館が今年3月オープンしました。パブリックスペースとして、町は一角に足湯を設置、また49インチ4台の情報発信システムの導入など新たな観光情報の発信手段として整備されました。秋宮周辺のまち歩きの拠点となる施設として期待されます。



● 下諏訪力創造チャレンジ事業への支援

「あなたが考えているまちづくりのアイデアを実現してみませんか」との呼びかけで18年度からスタートしたチャレンジ事業。今年度も協働による「個性とアイデアあふれるまちづくり」を目指して、下諏訪こどもEXPOなど8件の事業が採択され、3,641千円の支援が決定し公益活動を展開しています。これからも町は積極的に応援してまいります。

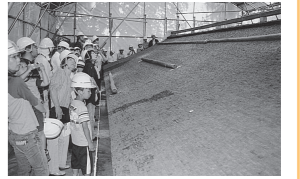
● 進む「景観計画」策定作業

「中山道と甲州街道が出会う大社といで湯の宿場まち」の歴史ある風情を維持向上するために、魅力ある景観を守り、次世代へ引き継ぐため「町景観計画」の策定を進めています。本年8月には一般町民も参加して「景観まち歩き」を開催しました。その結果については、検討委員会のワーキンググループを開催し、当町の景観に対する意見や感想を地図上に整理しました。今後更に検討委員会で協議を進め、多くの方のご意見を景観計画に反映させてまいります。



● 諏訪大社修復事業への補助

町の補助を受け諏訪大社下社秋宮で行われている国重要文化財の幣拝殿と左右片拝殿の修復工事で昭和初期の姿だった檜皮（ひわだ）ぶきによみがえりました。文化庁の認可を得て進められている修復工事ですが、神楽殿の修復などすべての工事が終わるのは来年9月の予定です。



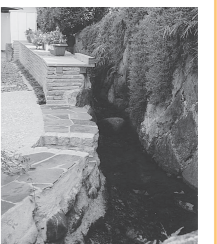
● レンタサイクル事業スタート

電動アシスト自転車で気軽に『ぶらりまち巡り』はいかがですか。町では6月から「まち巡りレンタサイクル事業」をスタートしました。体にも環境にもやさしい今人気の電動アシスト自転車を貸出し、観光客をはじめ一般町民の皆さんに気軽に利用いただき、まち巡りや散策などに使ってもらうもので、自転車には軽量かつ長持ちするバッテリーとモーターがついており、自転車は疲れると敬遠がちな人にうってつけ。町の観光活性化や健康づくりに大いに期待されています。



● 大社周辺地域の活性化

町が民公協働で進める初の街なみ環境整備事業として立町の中川沿いへのポケットパークが今年の3月に完成しました。場所は青塚館前の町有地約13平方m。承知川の支流である中川の護岸整備のほか、自然石の舗装やベンチが設けられました。同事業は歴史的な街並み環境を良好に維持することを目的に2005年度から導入されたもので「蛸舞う水辺」の再生へ期待されています。



● 好評です！空き家情報バンク事業

昨年8月から定住対策の一環として、この町に住んでみたいという希望者の要望に応えるため、町内にある空き家情報を紹介する「空き家情報バンク」制度が着実に成果を上げています。本年10月末現在の利用状況は、空き家所有者（家を貸したい、売りたい）の登録済み物件が23件、内9件が成約。また利用希望（この町に住んでみたい人）の登録済み者が34人、内5人が成約となるなど順調な運営となっています。住居探しでお困りの方や空き家の活用をお考えの方はお気軽にご相談ください。
◇問い合わせ先 総務課 企画係（内線257）